
必要だとわかった時

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

必要だとわかった時

【Nコード】

N6120N

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

まずは見てから！！

ただ、ハッピーエンドはお約束しますので、途中で読むのをやめないでください！！！！

（前書き）

本当に、本当に、

ハッピーエンドはお約束します！

→ つるさいですが・・・

「蘭ちゃん、元気出して。新ちゃんは、短い間だったけど、蘭ちゃんと一緒にいられて、幸せだったわ。」

「っ……っ……」

「母親の私が言ってるのよ？本当だから。」

「おば様……私、新一になにもしてない！」

「気にしないで。コナンちゃんになって、世話をしてくれたし、恋人になって、十分支えた。そしてなにより、新ちゃんは蘭ちゃんが隣にいてくれるだけでよかったのよ？」

おば様の胸で、私は泣いた。

2日前、新一は事故にあった……

私を庇って。

病院に着いたときは、死んでいた――

〓 〓 2日前 〓 〓

「新一！ねえ、新一ってば！」

「んだよ。」

「小説ばっか読んでないで、どっか遊びに行こう？」

「どこに？」

「え？どこって・・・んんぶらぶらと、どこかへ」

「・・・」

「あゝ！ばかにしたわね！いいもん！私1人で行くから！」

「お、おい。待てよ！」

玄関へ向かう私を慌てて追った。

「くすくす。じゃ、一緒に行ってくれる？」

「・・・わかったよ。んじゃ、上着とってくるな！」

上着をとりに部屋に向かった新一は
3分くらいで私のところへ来た。

「あー！楽しかった！ありがとう。」

「どういたしまして。」

「あと、このブローチもね！」

「ああ。」

「次はなにくれるかな？」

「おいおい。」

私は道路に出て、

「嘘よ！嘘。」

と言おうとした。

でも、言おうとしたとき、

新一の声と重なった。

「危ない！蘭！！」

「え？」

キキイイイイイツツ！！！！！！

ドンッ！

「う・・・！！！」

私は無傷だった。

その代わりに、新一は

血まみれ。

「し、新一？」

「だ、大丈夫。安心しろ。」

「大丈夫なわけないでしょ！！救急車呼ぶね！」

バシッ

携帯を投げた新一。

「哀・・・ちゃん・・・？」

「これ、工藤君から預かってたの。」

渡されたのは手紙。

カサカサッ

「蘭・・・へ

『えつとこれを見てるっつーことは、俺死んでるのか？

まいったなー。間抜面で見えるなよ？』

なにが間抜面よ・・・ばか。

『蘭、俺がいなくても、幸せになれよ。誰でもいい。

お前を世界の誰よりも愛してくれる奴と幸せになれ。』

あんた以外、いないわよ・・・

『まあ、あれだ。お前なら大丈夫！

心配すんなよ！ただ、1つ言っておく。

世界一好きだ。それは変わんねえ。俺は死んじまっただけど、生まれ変わったら、また、俺と一緒になってくれよな。』

・・・」

「ばかよね。工藤君。大馬鹿者よ。」

「ほんと・・・ばか正直に、思うがままに書いてさ・・・」

「ただね、幸せになれっていうのは本音よ。」

「うん。私、明日新出先生に断るね。」

「え？」

「だって、新一は私の幸福を願ってるんでしょう？私にとって、幸せは新一と一緒にいることだもん。」

「蘭さん・・・」

私に優しい北風をあてる

「い・・・おい！」

「あれ？お父さん？私、何時の間に寝てたんだろ。さっきまで哀ちゃんといたのに・・・」

「は？お父さん？」

「・・・し、新一！？私、天国にいるの??」

「お前にとつての天国って俺ん家かよ。」

「え？俺ん家？」

「おいおい・・・ここは正真正銘、米花町2丁目22番地！」

「ほんと?」

「嘘だと思っなら、外出ろよ。」

「・・・私、なにしてたんだっけ。」

「はあ？お前が出かけたと言って言うから、上着とつてくるって言うて、俺が戻ってきたらお前が寝てたんだよ。」

私はどうやら、

今日は出かけて、事故に遭って・・・

という夢をみたらしい。

「で？どこ行くんだった？」

「い、いいや！今日はゆつくり家で楽しもう？」

「????」

新一は訳もわからず私の顔を見た。

でも、そんなのも無視し、私は台所へと向かい、新一のために
珈琲淹れた。

(後書き)

桜桃「ね？ね？ハッピーエンドでしょ？？」

友C「そこまでやると、うざいよ。」

桜桃「うっさいなあ。」

友C「なにさ！いいもん！美帆といるから！」

美帆「？」

友C「Bともいるし！」

友B「くつつくな！気色悪い！！」

友C「・・・うわーん！美帆ー！！」

美帆「どうしたの？この子。」

桜B「さあ？」「」

友C「もう！皆やだー！」

3人「」「そりやどうも。」「」

友C「~~~~~っ！~！~！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6120n/>

必要だとわかった時

2010年10月10日01時41分発行